



あきたはまるごと博物館 文化財探訪ツアー

森吉山麓遺跡の里コース



伊勢堂岱遺跡(鷹巣町)

森吉山ダム広報館(森吉町)

地藏岱遺跡発掘調査体験(森吉町)





森吉山麓 遺跡の里コース

森吉山麓



コースの概要

秋田から五城目町に入り山間を貫く国道285号線を北上します。やがて鷹巣町に入り大館能代空港へのアクセス道路を西へ走ると間もなく伊勢堂岱遺跡の案内板が見えます。小高い台地上に営まれた遺跡からは、鷹巣の町並みや遠くに森吉山の山並が望むことができます。遺跡は祭祀の性格を持つもので、最大直径45mの石のサークル(環状列石)に圧倒されます。

再び、道路を戻り森吉町米内沢から川沿いの道を東進していよいよ森吉山麓に入ります。ダムサイトに造られた道路を登ると森吉山ダム広報館が見えてきます。この建物は国土交通省による学習施設で、館内にはダム工事状況のパネルや遺跡の発掘調査で発見された土器、石器が展示され、見応え十分です。館の外に立つと眼下にダム工事の状況が一望できます。

館を後にダム工事現場へと下って行くと、行き交う大型ダンプが砂塵を舞い上げ通りすぎて行きます。

地蔵岱遺跡は小又川沿いにあり多くの人が調査に従事しています。この遺跡は縄文時代から中世まで長く営まれた集落跡でここでは遺構の確認と精査、土器・石器の洗浄を実際に体験します。土の感触を十分に味わって、悠久の昔の生活を思い描いてみましょう。

順路

伊勢堂岱
遺跡

森吉山ダム
広報館

地蔵岱遺跡

伊勢堂岱遺跡(鷹巣町)

標高40～45mの台地に営まれた、縄文時代後期(約4000年前)の遺跡です。

自然石を円形に並べた環状列石が4基確認されており、当時大規模な祭礼がこの場で行われたものと考えられます。平成13年1月に国の史跡に指定されました。



森吉山ダム広報館(森吉町)

森吉山ダムは昭和47年の大洪水をきっかけに流域の人々を守るため、またかんがい用水や水道水の供給のため、平成13年3月から本格的な工事に着手しました。広報館は、ダム建設の情報や建設地内の埋蔵文化財発掘調査の成果などを提供すると共に、建設地の自然や風土、歴史を知ることができるようにつくられた学習施設です。館からはダム建設現場が眼下に一望できます。



地蔵岱遺跡(森吉町)

森吉山麓を流れる小又川沿いの台地上に営まれた縄文時代から平安時代、中世の集落跡です。住居や建物の跡、土器や石器などが多数見つかっています。当時から山の幸、川の幸が豊富で人々が生活するのに適した所であったことがうかがえます。



秋田杉と マタギの里 コース



矢石館遺跡(田代町)

(県指定史跡)

この遺跡は、米代川の支流・早口川沿いの台地にある縄文時代晩期のもので、範囲は約4万㎡と推定されています。河原石などを長方形に並べた5基の石組の棺は、県内における縄文時代晩期の代表的な組石遺構です。また、縄文晩期の完形土器・石製品・岩版・土製曲玉や石製腕飾りなどの装身具も、多数見つかっています。

大堤一里塚(鷹巣町)

(県指定史跡)

慶長9年(1604)、秋田藩が幕府の命を受けて築造した一里塚のひとつで、県内の羽州街道の塚としては、(64ヵ所中)南から数えて55番目のものです。塚は、東西に走る街道をはさんで南北に一基ずつ残っています。

大太鼓の館(鷹巣町)

ギネスブックが「世界一」と認定した綴子太太鼓を紹介する施設です。館には、大太鼓の実物6台と資料が常時展示されており、『体感ゾーン』では大太鼓の迫力と伝統行事を100インチの大型スクリーン3面で楽しむことができます。また『世界の太太鼓ミュージアム』では世界各国の太鼓を集め、その文化的役割を紹介しています。

内館文庫跡(鷹巣町)

(県指定史跡)

綴子神社境内にある内館文庫跡は、その起源が鎌倉時代と伝えられる地域の教育機関です。慶長年間(1648～52)に神職の武内氏が開設した内館塾にかかわる蔵書や塾用器物などは、この地域の近世の庶民教育を伝えるものとして貴重です。

胡桃館遺跡(鷹巣町)

(県指定史跡)

鷹巣中学校西側にある平安時代の遺跡で、柵列・柱列・建物などが、シラスに沿った状態で発見されています。これらの建築遺材は、米代川の大洪水で埋没したもので、建築材がそのまま残っている全国的にも貴重な遺跡です。

たかのす風土館(鷹巣町)

本格的なホールと町立図書館及び郷土資料館の機能を併せ持つ、県内屈指の多目的施設です。大ホールは客席650席を有し、展示資料室では、伊勢堂岱遺跡・胡桃館遺跡・藤株遺跡の貴重な出土品を展示しています。

浜辺の歌音楽館(森吉町)

名曲「浜辺の歌」や「かなりや」で知られる同町出身の作曲家成田為三の業績をたたえて造られた音楽記念館です。1階のリスニングルームでは、為三の代表作を自由に聞くことができ、2階の出合いのステージでは、自動演奏ピアノの調べに合わせ動く、為三人形などが、為三の人生と業績を紹介しています。

旧阿仁鉱山外国人官舎(阿仁町)

(重要文化財)

官舎は、明治15年(1882)に阿仁鉱山に建てられたドイツ人技師のための宿舎です(通称異人館)。県内に残る最古の洋風建築で、明治初期の煉瓦造りの洋風住宅として貴重です。隣接する郷土文化保存伝承館では、閉山まで660年余も続いた阿仁鉱山の歴史と民俗芸能の根子番楽(重要無形民俗文化財)などが紹介されています。

阿仁町ふるさとセンター(阿仁町)

センター内のマタギ資料館では、マタギの衣服や狩猟の道具(県指定有形民俗文化財)、動物の剥製などを展示し、マタギの世界を再現しています。隣接する打当温泉のすぐ近くには「熊牧場」があり、60頭ほどのツキノワグマが観光客の目を楽しませてくれます。

ちょっと寄り道

とうとうさど
桃洞・佐渡のスギ原生林(森吉町・阿仁町)

(天然記念物)

森吉山県立自然公園は、標高1454mの森吉山のアスピーテ特有の広い山体全山を区域としています。桃洞付近には、標高850～950mのブナ帯上部の高所に原生状態のスギ林が分布し、打当沢地区の佐渡杉とともに、国の天然記念物に指定されています。

小又峽(森吉町)

(県指定名勝及び天然記念物)

森吉山県立自然公園の北端にある小又峽は、太平湖(森吉ダムの人造湖)に注ぐ小又川の上流とその支流一体の峡谷です。峡谷内には、急流がつくる多様な滝や多数の鮎穴(川床に生ずる鍋状の穴)の奇観が続き、中でも三階の滝は圧巻で、訪れる人に自然の力強さを感じさせます。

万灯火(合川町・上小阿仁村)

春彼岸の宵に、かがり火を振り回すなど、藁を積み上げて火を焚き上げたり、松明をかざしたりする行事が行われます。この行事は万灯火祖霊の送迎をするという古い信仰を伝え、心温まる行事として伝えられています。

根子番楽(阿仁町)

(重要無形民俗文化財)

この根子番楽は、源平に縁のある人によって伝えられたという古い伝承のある民俗芸能です。盆は先祖の供養として、神社祭礼の時は豊作の祈りを込めて演じられ、表12番・裏8番を伝えています。演目は、露払いから初めて勇壮闊達な武士舞を繰り広げ、やがて最後に鐘巻で終わります。